

2022年度 点検・評価活動を振り返って

2022年度神奈川大学自己点検・評価全学委員会
委員長 大橋 哲

本学は、2021年度に受審した大学基準協会による大学評価（認証評価）において、「『自己点検・評価全学委員会』によるマネジメントが機能しておらず、実質的な内部質保証は各機関・部門における個別対応が基礎となっているため、適切に内部質保証体制を整備したうえで、これを有効に機能させるよう改善が求められる。」との改善課題を受けた。これを受け、2022年度より、チェック機能の強化策として『神奈川大学 大学評価委員会規程』を制定し、神奈川大学及び神奈川大学大学院は『神奈川大学 大学評価委員会規程』及び『神奈川大学自己点検・評価規程』に基づき、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を毎年度、全学的に実施することとなった。

以下に、2022年度の取り組みを総括する。

1. 2022年度の点検・評価活動について（取り組みの概要）

1) 各学部・研究科における自己点検進捗確認シートの実施

第3期認証評価の改善課題として、「『自己点検・評価全学委員会』によるマネジメントが機能しておらず、実質的な内部質保証は各機関・部門における個別対応が基礎となっているため、適切に内部質保証体制を整備したうえで、これを有効に機能させるよう改善が求められる。」との指摘がなされた。

そのため、全学の内部質保証を有効に機能させることを目的として、本委員会において、各組織の教育・研究にかかる活動及び改善課題の改善に向けた取り組みについて、進捗確認を実施することとし、2021年度第6回自己点検・評価全学委員会（2022年3月23日開催）において、各学部・研究科に自己点検進捗確認シートの提出を依頼した。提出を求めた項目は、以下に示す「大学基準に関する進捗確認（全学部・研究科）」、「改善課題に関する進捗確認（対象学部・研究科のみ）」である。

大学基準に関する進捗確認（全学部・研究科）

- ・基準3 教育研究組織
- ・基準4 教育課程・学習成果
- ・基準5 学生の受け入れ
- ・基準6 教員・教員組織

改善課題に関する進捗確認（対象学部・研究科のみ）

- ・基準4 教育課程・学習成果
- ・基準5 学生の受け入れ

2022年度は、中間期・期末期の年2回報告を求め、中間期は2022年7月27日を締め切

りとして、「2021年度までの現状と課題」、「2022年度中間報告」について提出を求めた。

また、各学部・研究科で記入した大学基準(基準 3、4、5、6)と改善課題への取り組み内容について、2022年度に新設された「神奈川大学 大学評価委員会」から客観性・妥当性・有効性の観点から評価を受け、大学評価委員会から提出のあった「2022年度 学部等実施委員会自己点検進捗確認シート中間評価報告書」が、2022年度第3回自己点検・評価全学委員会(2022年11月30日開催)で報告された。また、同会議において、2023年1月12日を締め切りとして「2022年度期末報告」、「2023年度以降」について提出を求めた。

2022年度第5回自己点検・評価全学委員会(2023年3月24日開催)において、大学評価委員会から提出された「2022年度大学評価委員会 評価結果報告書」(別添1)の内容が報告された。

2)神奈川大学 大学評価委員会

第3期認証評価の改善課題として指摘された「内部質保証体制を整備したうえで、これを有効に機能させるよう改善が求められる。」に対応したチェック機能の強化策として『神奈川大学 大学評価委員会規程』を制定した。委員は、学内外の学識経験者で構成された以下のメンバーとし、学長からの指名で吉澤達也人間科学部教授を委員長とした。

所属等	氏名
人間科学部教授	○ 吉澤 達也
神奈川大学名誉教授	泉 進
野村證券株式会社 金融公共公益法人部 主任研究員	片山 英治
理事長付特別審議役	小桐間 徳
事務局次長兼スポーツ戦略室長	福元 摩湖
千葉大学 名誉教授	前田 早苗
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事	吉武 博通
関東学院大学 国際文化学部英語文化学科教授	吉田 広毅

※委員長:○印

本委員会の活動については、以下のとおり。

2022年度第1回神奈川大学 大学評価委員会(2022年9月29日開催)においては、学長より本委員会の設置の趣旨が説明され、事務局より、『神奈川大学 大学評価委員会規程』に基づき、「(1) 神奈川大学自己点検・評価規程に定める自己点検・評価項目の評価」、「(2) 自己点検・評価結果の客観性及び妥当性に関する評価」、「(3) 本学の中期計画及び年次計画(事業計

画)の客観性及び妥当性に関する評価」、「(4) その他学長が必要と認める重要事項に関する評価」が諮問事項であり、今年度は学部・研究科が作成する自己点検進捗確認シートに対して、客観性・妥当性・有効性の観点から評価コメントを付すことの依頼を行った。

第2回大学評価委員会(2022年11月10日開催)においては、大学評価委員が付した中間期の自己点検進捗確認シートに対する評価コメントが報告され、それを踏まえて2022年11月25日に「2022年度 学部等実施委員会自己点検進捗確認シート 中間評価報告書」が吉澤達也大学評価委員会委員長から大橋哲自己点検・評価全学委員会委員長宛てに提出された。

第3回大学評価委員会(2023年2月14日開催)において、各学部・研究科から提出された期末期の自己点検進捗確認シートが提示され、中間期に引き続きに評価コメントを付すよう依頼した。

第4回大学評価委員会(2023年3月14日開催)において、大学評価委員が付した期末期の自己点検進捗確認シートに対する評価コメントが報告され、それを踏まえて2023年3月23日に「2022年度大学評価委員会 評価結果報告書」が大学評価委員会委員長から小熊誠学長宛てに提出された。

3) 教学改革委員会小委員会(学習成果の可視化にかかる検討)

中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」では、学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用することが求められている。また、中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」においても、学修者本位の教育の観点から、一人一人の学生が自らの学修成果として身に付けた資質・能力を自覚できるようにすることが重要であり、大学の教育活動を学修目標に則して適切に評価し、「卒業認定・学位授与の方針」の見直しを含む教育改善につなげるためにも、学修成果・教育成果を適切に把握・可視化する必要があることが明示されている。

本学においては、2021年に受審した第3期認証評価結果において「経営学部を除く各学部及び研究科では学位授与方針に定めた学習成果と学習成果を把握するための手法との関連性が明確ではないため改善が求められる」との「改善課題」が付された。「改善課題」については、2025年度の『改善報告書』の提出時までには、全学で改善にかかる取組を実施し、その検証までを行い、大学基準協会へ報告する必要がある。

そのため、2022年4月22日に学長の諮問により、上記課題の改善を図るとともに、最適な全学的な取り組みを検討することを目的として、神奈川大学教学改革委員会規程第6条第1項の規定に基づき、「教学改革委員会小委員会(学習成果の可視化にかかる検討)」が設置された。

諮問事項は以下の通りである。

【諮問事項】

- ①学習成果の可視化に係る全学的方針の検討
- ②その他、検討に必要な事項

【小委員会開催状況】

開催日	検討内容
第1回 6月21日(火)	本学の現状と課題(学修成果の可視化がなぜ必要なのか)
第2回 7月8日(金)	他大学での教学マネジメント推進の手法と実例について
第3回 7月27日(水)	他大学での学修成果の可視化の手法と実例について
第4回 8月24日(水)	答申案の内容及び今後の検討事項・スケジュールについて
第5回 9月13日(火)	答申案について

【学修成果の可視化に係る全学的方針について】

教学マネジメント指針を踏まえ、以下の全学的方針を決定した。

- ・学修成果の可視化とは、科目ごとの学修目標の達成状況を基本としつつ、それだけでは評価することのできない力を外部アセスメントテストで測り、両者を組み合わせることで多角的に把握することが必要であると考え。
- ・また、学修成果を可視化する手法として、科目ごとの学修目標達成状況を可視化するために、システムの利用が必須条件となることが想定される。
- ・成績評価については、信頼される成績評価が可視化の前提であると指摘されており、教員間及び教員と学生間の評価方法に関する認識の一致と評価基準の統一を目標として、ルーブリックの導入等、成績評価の基準ガイドラインの策定は必須であると考え。

【今後の検討に必要な事項な事項】

- ・DPを起点に具体的な学修目標を設定する
- ・各科目とDPや学修目標の関係を整理する
- ・アセスメントの策定
- ・学修成果の可視化の手法の検討
- ・成績評価のガイドラインの策定

4) 「神奈川大学の基本方針 2022」の刊行

本学では3つのポリシーを策定した後の2011年より、3つのポリシーを含む本学の各種方針を学内外に広く周知するため、「神奈川大学の基本方針」を冊子刊行するとともに、大学ウェブサイトにて公開してきた。

2021年度より、冊子の刊行を行わないこととし、学内及び希望者への配布については、適宜事務局にて印刷することとした。

■神奈川大学ウェブサイト「本学の情報」 神奈川大学の基本方針

http://www.kanagawa-u.ac.jp/disclosure/data/basic_policy/

2. 2022 年度の点検・評価活動を振り返って

2022 年度は、2021 年度に受審した大学基準協会による大学評価（認証評価）において改善課題として指摘された「内部質保証体制の整備」を受けて開始した「自己点検進捗確認シート」の作成と、チェック機能の強化策として「神奈川大学 大学評価委員会」による外部評価等を実施した。また、改善課題として指摘された「学習成果の可視化」については、「教学改革委員会小委員会（学習成果の可視化にかかる検討）」が設置され、答申が示された。

今後は、答申に示された方針に沿って検討を進めていく。

3. 今後の活動について

1) 内部質保証の新たな体制について

本学における教育の質保証及びその水準の向上を図ることを目的とし、神奈川大学教育支援センター規程改正案が承認され、2023 年 4 月 1 日に施行された。具体的には、教育支援センターに自己点検・評価全学委員会を組み込み、教学マネジメントの核となる組織に再編する。また、教育支援センターの自己点検・評価及び内部質保証のための各種の業務及び行動を、学長が教学マネジメントの最上位指揮者として監督するため、教学マネジメント全学委員会を新設した。

また、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な FD 活動や、教育職員・事務職員に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための SD 活動について、これを計画して実施するため、「FD・SD 推進部会」を設置することとなった。さらに、本学の計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことができるようにするための教学 IR の体制を確立するため、「IR 推進部会」を設置した。これらの新体制の下、本学における教育の質保証及び水準の向上を継続的に図るものとする。

2) 学修成果の可視化の検討

2022 年度に提出された教学改革委員会小委員会（学習成果の可視化にかかる検討）答申に基づき、検討を進める。具体的には、自己点検・評価全学委員会・学部等実施委員会においては学修目標の設定、履修系統図作成、FD・SD 推進部会・IR 推進部会においては学修成果の可視化に向けたアセスメント及び手法の策定の検討を進める予定である。

3) 大学評価委員会の見直し

大学評価委員会より、「2022 年度大学評価委員会 評価結果報告書」により様々な提言を受けた。「今年度は、学部・研究科の自己点検進捗確認シートについて、大学評価委員会委員が中間期、期末期に評価コメントを付したが、学内事情を把握していない外部評価委員にとっては、詳細な取り組み内容を踏まえた評価コメントを付すことは困難であった。次年度以降は、全学の内部質保証を有効に機能させることを目的として設置された教学マネジメント全学委員会のもとで各学部・研究科の自己点検進捗シートを点検及び評価コメントを付すなどして、大学全体の方向性を明らかにしたうえで、大学評価委員会はその内容を踏まえた大学として進むべき方向性への提言など、

全体を俯瞰した視点から大学の進むべき方向や改善に向けた取り組み等について提言することが有効である」との提言が大学評価委員会からなされたため、その趣旨に沿った見直しを行う予定である。

4) 各委員会における自己点検進捗確認シートの実施

2022 年度は、学部・研究科のみを対象に自己点検進捗確認シートを実施したが、2023 年度以降は自己点検・評価全学委員会の全ての構成委員会に提出を求める予定である。

以上